

産業用ワイプについて

理系の大学で実験を行ったことのある方なら一度は目にしたことのあるキムワイプ。化学実験器具などを拭く為に学生の実験から企業の研究室にまで幅広く使用されています。

身近にキムワイプがある方は「ほぼ100%」経験していることですが、これで鼻をかむと鼻が荒れます。(笑) 見た目は大差ないように感じられますが、ティッシュペーパー・ペーパータオルなどの紙製品とキムワイプとではどのような違いがあるのでしょうか?

キムワイプとペーパータオルを例に挙げて、違いを簡単に紹介致します。

キムワイプとペーパータオルの違い

どちらもパルプ(紙)で出来ていますが、パルプの質が大きく違います。

キムタオルは針葉樹から採取される「長繊維」、ペーパータオルは広葉樹から採取される「短繊維」が使用されています。ここで言う「長繊維」・「短繊維」とは繊維の相対的な長さを表し、一般的に長繊維を使用した製品は硬く、丈夫に。短繊維を使用した製品は柔らかい質感になります。また、長繊維の製品は繊維同士の結び付きが強いので紙のクズが出にくくなっているため、異物混入を嫌う実験室、研究室での器具清掃に用いられるのです。

キムワイプで試験管などを拭いた時には、紙クズも出ず綺麗に汚れが拭きとられるので、ついつい眼鏡男子が自分の眼鏡を拭いたりしてしまいがちですが、プラスチック製の眼鏡には表面に細かい傷が付いてしまう可能性があります。商品グレードによっては眼鏡拭きとして使用出来る物もありますが、注意が必要です。

キムワイプの歴史

西暦	発売製品名	素材	内容
1947年	キムワイプ	紙	米国キンバリ-クラク社が産業用の拭き取りワイパ-として世界で初めて紙を使用したワイパ-を「キムワイプ」という商品名での発売を開始する。
1966年	JKワイパー150-S	紙	キンバリ-クラク社と十篠製紙により、十篠キンバリ(株)が設立。紙製のふき取り専用商品として「JKワイパ-」が発売。
1969年	キムワイプS-200	紙	米国での発売から22年の後、日本でも発塵の少ない品質の「キムワイプ」が発売となる。
1970年	キムタオル	紙	産業用機械で発生する油や水の拭き取り用で布ウエスの代わりとなる「キムタオル」が発売される。
1983年	キムテックピュア・クルー	不織布	不織布製のクリーンルームエリア用の「クルー」(現キムテックピュア・クルー)が発売される。
1994年	ワイプオール	不織布+紙	紙と不織布双方の特徴を兼ね備えた「ワークホ-ス」(現ワイプオール)が発売となる。
2004年	テクノワイプ	不織布	今までにない低発塵性能を持つクリーンルームエリア用不織布ワイパ-「キムテックピュアCL4」(現テクノワイプ)が発売となる。



御社のご利用状況に応じて最適な製品を紹介致しますので、営業担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。